

田原本町古事記
1300年紀事業

記念フォーラム

深まる郷土愛

11月18日、弥生の里ホールで、古事記1300年を記念し「記念フォーラム」が開催（町古事記1300年紀事業実行委員会主催・鈴木幸兵会長）され、約800人が参加しました。今月は、フォーラムの様子を通じて太安万侶の偉業を振り返ります。



⑤



①



⑥



④



②



⑦



③



⑧

①迫力満点のこどもYOSAKOIソーラン②天の岩戸をイメージしたトモコダンスプラネットの演舞③鏡作神社、村屋神社の巫女神楽④太安万侶の役を演じる寺田町長⑤風流舞「奏楽」による太鼓演奏⑥応援にかけつけたももたん⑦ステージに見入る観客⑧奏楽とトモコダンスプラネットが合同で演舞を披露

古事記へのいざない～映像・音楽・演舞～

古事記の世界を楽しむ

町民たちによるステージで記念フォーラムの幕が開きました。
このステージでは、古事記に関連した映像・音楽・演舞が披露されました。

宮森保育園児が踊る迫力満点のこどもYOSAKOIソーランで、ステージが幕を開けました。

古事記に関連する鏡作神社や村屋神社の巫女が神楽を舞い、奉納しました。スクリーンに映し出されていく古事記の成り立ちや古事記編纂者である太安万侶、古事記の神話ナレーターの福原浩代さんと太安万侶に扮した寺田町長の二人で紹介していきます。

続いて、古事記の神話である天の岩戸をダンスグループのトモコダンスプラネットが演舞で再現。古代舞グループの風流舞「奏楽」が、和太鼓演奏を披露し、最後は、奏楽とトモコダンスプラネットが合同で、桃遊楽を演じました。盛りだくさんのおもてなしに、満員の会場から大きな拍手が送られていました。





寺田典弘

田原本町長

多忠記さん

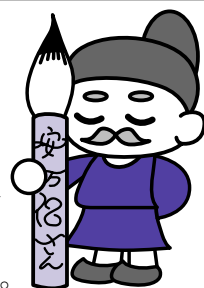
多神社宮司

和田萃さん

京都教育大学名誉教授

鼎談 安万侶さんを語る

田原本の誇りを後世に



日本古代の思想や文化、木簡などの研究者である京都教育大学名誉教授の和田萃さん、太安万侶の子孫である多神社宮司の多忠記さん、寺田典弘町長の3人が、安万侶さんについて語り合いました。

和田

町長さんは、ずいぶん古事記に関心をお持ちで、田原本の人に古事記をもっと広く知っていただきたいと強くお考えと伺っております。その辺りをお話しいただけますでしょうか。

寺田

古事記は、読んでいまして非常に面白くて、2時間もあれば読み切れる文章で、国の成り立ちが書いてあるんですね。私たち日本人が、自国の成り立ちを知らないのは非常におかしなことだと、私常々思っているんです。

安万侶さんは田原本町の出身であり、町民の皆さんはぜひ、現代文で構わないので読んでいただきたいです。一歩踏み込んでいただけるように、シンポジウムを文章にして本にしたいと考えております。また古事記の小冊子なども作らせていただこうと考えております。

昭和54年の1月に、奈

良市このせ此瀬町で太安万侶さんの墓誌が発見されたことがずいぶん大きく報道されました。その太安万侶さんの墓誌が発見されたときに、多さんはどう

いう感慨を持たれたのでしょうか。

多

今から33年前、ちょうど森の中で、父と一緒に木の枝を切っております。すると新聞記者が来て、「多さん、えらいことが起こりましたよ！」と教えてくれたのが、安万侶さんのお墓が見つかったときだったんです。

安万侶さんは、お墓が見つかるまでは、架空の人物だという方が大半だったんです。お墓が見つかるおと、おそらく日本国中で小躍りして喜んだのは、私の父だと思います。

和田

昭和54年の1月に、安万侶さんの墓が奈良市此瀬町であると確定した後、多さんは、ずいぶん多年に渡って遺骨を「ぜひ、

神社の方へ戻したい」ということで、尽力をされました。また地元の地区、田原本町のいろいろな方が尽力をされて、多神社にその一部が戻りました。多神社のすぐ南側に、7月の初めに安万侶さんを祭った一角があります。

そこに大きな記念碑を建てられ、そして多さん自身も安堵されたことと思います。その辺りのいきさつをお話しいただけますか。

多

一昨年の7月6日、安万侶さんの命日のちよつと前に遺骨が帰ってこられました。どこかへ埋葬して、地元の皆さん方のお参りできる所を思っただんです。

多神社の氏子、総代さん25名の方々と相談して、「多神社の横へこしらえましょう」ということになりました。4月ごろから工事に取り掛かり、7月6日に「1300年記念碑」という形で作り上げることができました。

かるたで、深める郷土愛



「田原本ふるさとかるた」の贈呈式が、11月29日、町長室で行われ、寺田町長から、町内各小学校2人の代表児童にかるたが手渡されました。「田原本ふるさとかるた」は、町観光協会がA4版サイズで作成していたものを、町と町観光協会ですべてのかるたサイズ（縦9cm、横6.8cm）にしました。

町内小学校の先生に集まっていたいで検討し、絵札はそのままだ読み札とその裏の解説文について、内容・単語を、小学生が理解しやすいようにしました。

町内小学校の全児童に配布し、町内の名所・旧跡や祭事などをかるたで遊びながら楽しく学び、郷土愛を深めることを目的としています。

このかるたは、田原本町ふるさと応援寄附金を活用して作成しました。

☎ 総合政策課 ☎ 34-2083

「田原本ふるさとかるた」の贈呈式が、11月29日、町長室で行われ、寺田町長から、町内各小学校2人の代表児童にかるたが手渡されました。「田原本ふるさとかるた」は、町観光協会がA4版サイズで作成していたものを、町と町観光協会ですべてのかるたサイズ（縦9cm、横6.8cm）にしました。

町内小学校の先生に集まっていたいで検討し、絵札はそのままだ読み札とその裏の解説文について、内容・単語を、小学生が理解しやすいようにしました。

ただ神社には遺骨を埋葬することができません。お墓が作れないんですね。ですから遺骨は、私個人の家の神棚にお祭りしております。

記念碑には、安万侶さんが書かれたという古事記の序文、そして国宝の写本があります。コピーのものですけれども、それを、埋納し、ご寄贈願った方々のお名前も刻んで中に納めております。体が空きましたら、一度記念碑の方に来ていた

だいて、どんなものなのか見てもらったらありがたいと思います。

和 田 田原本町には町並みとしても非常に優れた所が残っております。町長さんが田原本をもっと活気のあるものになりたいと先ほども伺ったんですが、その辺りのことをお話しただけです。寺田 観光をPRしていく資源は豊富にあると思います。田

原本に住んでいる人にもず分かって、理解をしていただき、歴史を知っていただかないといけないと思います。そのため、観光協会にお願いいたしました。「ふるさとかるた」を作らせていただきました。

群馬県の「上毛カルタ」がござります。これは、群馬の幼稚園へ講演に行ったときに、子どもたちが意味も分からないのに、それを読んでカルタをしているんです。だから、結局意味なんか後でもいいんです。子どもたちにまず刷り込んでいく取り組みをして、まず家の人たちに、田原本の町を好きになつていただいて、そして町民の皆さんが町の外で「うちはこんなええ町やねんで」と口コミでも広がっていく。ちょっと気の長い話になりますが、しつらえもさせていただけますし、ハード的な整備も今後進めさせていただきます。



寺川眞知夫さん

同志社女子大学特任教授。専攻は国文学で記紀神話、万葉集、日本霊異記などが研究課題。



和田萃さん

京都教育大学名誉教授。日本古代の思想や文化、木簡などを研究し、考古学にも明るい。

和田

3人の先生方から報告いただき、討論したいと思います。まず、寺川先生からご報告いただけますでしょうか。

寺川

天武天皇の勅語の帝紀、旧辞を稗田阿礼が誦習していたのですが、これが中断しました。そのことを惜しまれて元明天皇が太安万侶に命じて古事記を編纂したと言われています。

太安万侶は元明天皇の

勅命を受けて古事記の撰集を行い、和銅5年(712年)にこれを献上しました。

太安万侶は壬申の乱で

活躍した多品治わたのほむぢの子とも

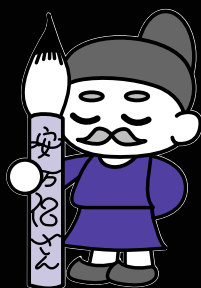
と推定されます。天武天皇の意向に忠実に、その意向を受けながら本をまとめる力を持った人物として太安万侶が選ばれたのではないかと思います。

上野

天武朝において古事記

太安万侶の才能

太安万侶と古事記に関する内容を一部紹介します。



というものがどの程度出来ていたか、寺川先生はどうお考えですか。

寺川

僕は、ある程度本は出来ていたと考えています。

ただし、どう読むかというところがはっきりしないところがあるので、その読み方をきちっと、稗田阿礼は読めるようにしたいと思えます。

和

次に、上野先生からお話をいただけますでしょうか。

書かれたものを声にするというところが稗田阿礼の仕事であるわけですね。文字が普及していない社会では口から耳へと神話を継いでいく必要がある。声に出して読むということとは非常に重要だったと思います。

上野

声に出して読むということは、聞かせるということですので、みんなにその内容がよく分かるように語るのです。

当然、ある所では繰り返したり、ある所ではリズムをつけたりして、みんなに聞いてもらう必要があるわけです。自分の心の中で得心して人に伝えていくことができる

ということなんです。

私は、最終的には太安万侶は稗田阿礼がいなくても読めるテキスト、つまり稗田阿礼が語っているところを稗田阿礼がいなくても読めるように注記をつけていくというような作業をして、現在の古事記を作ったのだと思います。

和

それでは、最後に辰巳先生からご報告をいただけますか。

古事記を編集するということは、それ相応に多氏が非常に文字を使うことに長じた家柄だったということだと思います。

辰巳

言葉は我々がしゃべりますが、文字をどう使うふうにするか、しかも、中国の文字を借りてくるわけですから、大変な学識が求められたはず。

自分たちの言葉を表記するそういう仕事に携わるといえるのはそれ相応に大陸の文化を早くから享受し、己のものとして

古事記の編纂

天武天皇は諸氏族の持っている帝紀(天皇家について記載)や本辞(氏族の伝承や神話伝説について記載)に真実と異なり多くの虚偽が加えられていることを憂えました。これらを詳しく調べて、誤りを正した書物を作り後世に伝えたいと思い、聡明な舎人の稗田阿礼に記憶させました。

天武天皇の後、持統天皇・文武天皇の時代を経て、元明天皇は文才に優れた太安万侶に記述させました。この二人の天才のお陰で「古事記」は成立しました。文字表記については変体漢文体(音訓併用)で工夫をしています。

これらのことは古事記序文に紹介されています。



辰巳和弘さん

古代学研究者。元同志社大学教授。考古学を中心に学際的な視点から古代の心の分析を实践。

上野誠さん

奈良大学教授。歴史学や考古学、民俗学を取り入れた万葉研究で学会に新風を送っている。

たからこそ、結果的に古事記編纂という大役を担うことになるのではないのでしょうか。

和田

古事記は文学性が非常に高く、現代人の我々が読んでも感動するような、そういうリズム感にあふれた文章ですね。

安万侶さんは、古代において最も優れた漢文学者でもあります。安万侶さんはおじいさんの妹さ

んが百済の豊璋の妻になつておりますから、百済の言葉に非常に習熟していた可能性もあるかと思えます。

安万侶さんが多様な形で、漢文だけでは読みにくい、それで和語です。ね、一字一音で読める形式とかを漢文学に取り入れた、変体漢文とよばれる形でまとめ上げたわけですね。

最後に、3人の先生方

シンポジウム やまとのまほろば田原本

古事記から読み解く

和田萃さんをコーディネーターに3人のパネリストと行われたシンポジウム。

いる部分があります。ですから、かなり言葉に対する意識の強い人であったんじゃないかと思えます。そういうことも含めて相当教養のある人物と言つていいという感じがします。

上野

古事記序文に自分自身が苦労していることを、太安万侶が書いてまして、「そうか。こうやって日本語を記す苦労をした人が、太安万侶なんだ」ということを知っていたきたい。

太安万侶という人は日本語によつて、日本人の心に神話を届けるために、日本語の書き方を工夫した偉人です。これはやはり田原本で顕彰していただきたいと思つております。

辰巳

最初の神代のお話に出てくる「こをろこをろ」という擬音語が、再び雄略天皇のところで使われています。稗田阿礼という一人の人物が語り継い

できた言葉が、非常に重要だということは太安万侶もよく認識していたからこそ、この言葉が古事記の前後で登場する。太安万侶が非常に苦労しながらも、工夫しながら、古事記という歴史書を作つたことがよく分かります。

古代の人の心の問題、擬音というものは、文字として表すのに非常に苦心がいるんですね。それをよく残してくれたなというふうに、私は思つていつも古事記を読んでいます。

和田

どうもありがとうございます。いろいろな形で文庫本の古事記が出ております。現代語訳を読んでも、古事記全体がどういうストーリーなのかというのを頭に置いて、参考書などで、より深く読んでいただければ、古事記はやはり、非常に優れた文学書であることをわかつていただけるかと思えます。

古事記とは

古事記は神話や歴史を伝える712年に完成した最古の史書です。上・中・下の3巻構成。注目すべきは神話であり、自然・人間・文化の起源を超自然的な神々に関連させて物語られています。神話には直接語られていなくても、伝承したいことが隠されていて、昔なじみのお伽話がいっぱい楽しく読めます。



最優秀賞（多くの杜賞〈一般の部〉）

古に 語り継がれし 安万侶の

ふることぶみを 今朝も読み居り

短歌を3年ぐらい前から我流で始め、新聞に応募しています。新聞に短歌の募集があったのを拝見し、応募しました。テーマがはつきりして

1300年紀という形で、参加できて良かったです。一生の記念になると思います。

だったので、心の感じるまま素直に自由に詠むことができました。



前田幸男さん
(生駒市)



最優秀賞（やすまる大賞〈小学生の部〉）

多じん社 やすまるさんが 見守るよ

『古事記』は今も ぼくらの宝

やすまるさんがつくってきたものを大事にしていきたいと思って短歌を作りました。

思ってたなかったので、とてもびっくりしました。ありがとうございました。

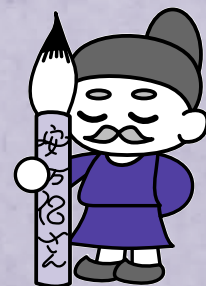
5つくらい作ったなかで、一番良かったと思ったものが受賞した作品でした。



細川蒼一郎さん
(南小3年)

「やすまるさんへのメッセージ」コンテスト

みんなの想いがぎっしり



全国から皆さんの想いがたくさんつまったメッセージを多数ご応募いただきありがとうございました。審査員による厳正な審査の結果、各部門の受賞作品が決定しましたので、紹介します。



佳作（一般の部）

ふるさとに どっかと根づく いにしへの

万葉の風 やすまるの夢

大塚孝夫さん（橿原市）

鎮座する 太安万侶 多神社

古事記の編纂 大和の宝

下西弘二さん（橿原市）



佳作（小学生の部）

万葉の 時よりつづく くになかは

やすまるの里 太陽の道

上田寧々さん（北小6年）

安万侶さん あなたの作った 歴史書は

語りつがれる 千三百年

太田涼音さん（北小6年）

ひいじいちゃん ひいばあちゃんは 星になる

やすまるさんに あってるのかな

岡橋優花さん（南小5年）

やすまるさん 古事記を書いた ころのこと

ぼくが調べて 友に伝える

岸上維颯さん（南小6年）

優秀賞（一般の部）

幾世経て つねにあたらし 安万侶の

遺せし文と 読めるよろこび

岡本道憲さん(桜井市)

和田先生から古事記の
文庫を勧められ、読んで
みたらおもしろかったで
す。同時に、子どもにと
き両親に聞かせてもらっ

た昔の話が、古事記とし
て残っているのに驚きま
した。短歌では、その気
持を表現させていただ
きました。



優秀賞（小学生の部）

こじきよむ やすまろさんの ふるさとで

時代をこえて 心にひびく

植田麻香さん(田原本小5年)

やすまろさんが古事記
を書いて1300年経っ
ても多くの人に読まれて
いることがすごいと思い

ます。やすまろさんの出
身が田原本だと知ってう
れしかったので、その気
持を短歌にしました。



優秀賞（一般の部）

我が町に ゆかりの古事記 ひもとけ

下つ道駈け来 子らの靴音

松原綾乃さん(田原本町)

読書会で、古事記を読
んでおりましたので、こ
の機会に応募しようと思
いました。

安万侶さんの生誕の地と
いう町の歴史と誇りが、
未来の子どもたちになか
伝わり引き継がれること
を願って作りました。



優秀賞（小学生の部）

やすまろさん あなたの古事記 受けついで

今日も豊かな 田原本町

小西悠太さん(北小5年)

田原本町がずっと豊か
であるように願っていま
した。昔のものがいっぱ
いある田原本が好きで、

やすまろさんのことを思
い浮かべて作りました。
またコンテストがあれ
ば、参加したいです。



やすまろさん 夜空の星は 今もなお

われらの町を てらしているよ

阪井理来さん(南小6年)

雨あがり 大和三山 かかるにじ

やすまろも見た 奈良の夏空

高木美月さん(南小5年)

やすまろさん あなたみたいに 作文を

とても上手に まとめてみたい

平井沙季さん(平野小6年)

青空へ やすまろさんと 手をつなぎ

太陽の道 かけっこしたい

廣橋佐紀さん(南小4年)

てすとでは いつも100てん とつてたの？

ちえのかみさま やすまろさん

松井優介さん(南小1年)

ぼくがもし やすまろさんに あえるなら

やすまろさんと あいすをたべる

松川大朗さん(南小3年)

うるわしき 大和の国の はじまりを

今に伝えし 太安万侶

森本なつ美さん(北小6年)

奈良時代 安万侶さんの 生まれた地

ぼくの住む町 歴史いっぱい

吉村隆晟さん(北小6年)